

若狭和田地区(3期)都市構造再編集集中支援事業(福井県高浜町)

R6年度ver.

事業概要:人口減少、少子高齢化、空き家・空き店舗・空き民宿等の発生によるまちの空洞化や地場産業の衰退化により、まちの活力の低下がみられる若狭和田駅周辺の居住誘導区域を対象に、地域住民の快適で安全・安心な生活や日常的な交流等を支える都市基盤を充実させることにより、まちなか居住の促進や活力の創出を図る。

事業主体:高浜町 面積:51ha 交付期間:令和6年度～令和10年度 立地適正化計画公表時期:平成31年3月
全体事業費:324百万円 交付対象事業費:324百万円(国費:161.8百万円) 国費率:49.9%



- : 都市再生整備計画の区域
- : 都市機能誘導区域
- : 居住誘導区域
- : 基幹事業
- : 提案事業
- (参考)
- - - : 関連事業

: R6年度事業箇所

提案事業(事業活用調査)
事業効果分析調査

関連事業
(仮称)和田公園ワークショップ



人口:0.97万人(令和5年4月時点)

基幹事業(公園)
(仮称)和田公園整備事業
R6年度事業内容:用地買収、物件補償、
測量、ボーリング調査

基幹事業(高質空間形成施設)
町道牧線高質化事業

和田公民館
和田小学校

若狭和田駅



R6.3月時点

都市再生整備計画

わかさわだ
若狭和田地区(3期)

ふくい たかはまちょう
福井県 高浜町

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	
まちなかウォークブル推進事業	

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-

都道府県名	福井県	市町村名	たがはまちょう 高浜町	地区名	なめきわたまち 若狭和田地区(3期)	面積	51	ha
-------	-----	------	----------------	-----	-----------------------	----	----	----

計画期間	令和 6 年度 ~ 令和 10 年度	交付期間	令和 6 年度 ~ 令和 10 年度
------	--------------------	------	--------------------

<p>目標</p> <p>大目標：和田地区におけるまちなか居住の促進と活力の創出 小目標：快適で安全・安心な生活や日常的な交流を支える都市基盤の充実</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 高浜町の高浜地区及び和田地区の中心部(まちなか)は、旧町村の中心として人口や都市機能が集積しているが、昔ながらの狭い路地や古い木造家屋が密集しており、高浜らしさと言える一方で、敷地が狭く自動車の利用が不便などの理由から、若者世代を中心として地区外への転出が進み、まちなかの人口が減少している。また、空き家・空き地が虫食いの発生する都市のスポンジ化が進行することで生活環境が悪化する恐れがある。 そこで、まちなかの地域資源(歴史、町並み、伝統文化、コミュニティ、地域産業等)を次代に継承するとともに、地域資源を活用したまちの魅力づくりや地域活性化に継続して取り組むことで、これらの担い手である人(特に若者)の居住を積極的に誘導する。具体的には、生活利便性の増進として、密集市街地の改善、まちなかの主要道路整備、歩行者空間の整備、子育て環境の充実、海浜資源を活かした産業・観光振興、まちの魅力の情報発信等の施策を行う。更に、高齢化の進展などに伴い、自分で車を利用できない人が増加や、買い物や通院などの日常的な移動が困難となる人が増加することから、オンデマンドバスの利用促進といった地域公共交通の利便性向上に取り組む。 また、郊外(都市計画区域外)に位置する青郷地区や内浦地区は、高浜町のシンボルである青葉山を背景に、田園や棚田、リアス式海岸などの自然が広がっている。地区内に点在する集落では、人口減少や高齢化が著しく進行しているため、公民館などの地域活動の拠点を中心として、必要最低限の生活サービスの提供や移動手段の確保、居住環境の改善などに努め、“小さな拠点”づくりを推進する。 公的不動産の活用方針としては、旧高浜町役場跡地における民間活力を活用した住宅地の整備や、旧高浜保育園跡地を活用した高浜中学校の機能強化など、地域の課題解決に資する公的不動産の活用や公共施設の再編による機能の強化・充実に取り組む。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>高浜町は福井県の最西端に位置し、若狭湾や青葉山の自然風景に囲まれたまちであり、その美しい自然の下で独自の歴史や伝統、生活、文化、地域産業が育まれてきた。 本地区は、高浜町市街地の東部に位置し、海水浴場を中心とした夏季観光により戦後の民宿業を中心に発展してきた住宅地域であり、近年では、地域住民や多様な主体による海水浴場の環境保全等の取組により、アジア初・国内初となる「ブルーフラッグ認証」を受け、これによって国内だけではなく世界からも注目されている。一方で、急速に進展する人口減少、少子高齢化に伴い、空き家・空き店舗・空き民泊・空き地等のまちの空洞化や地場産業の衰退化により、まちの活力の低下が深刻な問題となっている。 このような中、高浜町では、人口減少・少子高齢化社会の到来を前提とした暮らしやすいまちづくりの実現に向けたコンパクトシティ戦略として、地域資源を活かした様々な取り組みを進めてきた。具体的には、平成26年度から実施している都市再生整備計画事業などを活用し、若狭和田ビーチの環境整備や観光案内板、若狭和田駅からビーチにつながるシンボル道路、和田地区の中心部をループ状で連絡する道路ネットワークの整備などを進めてきた。 しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により停滞した地域経済がどこまで回復するかは未だ不透明であり、また、人口減少や少子高齢化の更なる進展が予測されているなか、まちの活力を高めるためには、まちなか居住の促進や地域コミュニティの活性化に向けて引き続き取り組む必要がある。</p>
<p>課題</p> <p>・まちなかの人口減少や少子高齢化の更なる進展が予想されるため、まちなか居住の推進に向けて暮らしやすい居住環境の形成が必要である。 ・また、地域のコミュニティや活力の低下も危惧されるため、地域住民等の日常的な交流を支える環境整備が必要である。</p>
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>高浜町総合計画(令和3年3月策定) 将来像(まちやひとの姿)：「くむ つなぐ かがやく ～自然とともにある暮らし 若狭たかはま～」 リーディングプロジェクト： 地域でくむ 暮らしよさ実感プロジェクト、 多様な関わりでつなぐ 新たな連携・交流促進プロジェクト、 魅力を高めてかがやく 賑わい創出・産業再生プロジェクト 第2次高浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和3年3月策定) 重点プロジェクト： 多様な関わりでつなぐ 移住・帰住促進プロジェクト、 親子をくむ しあわせ子育て応援プロジェクト、 まちがかがやく 人と仕事的好循環プロジェクト 高浜町都市計画マスタープラン(平成24年3月策定) 都市づくりの目標：海辺の暮らしから“継”～ひと・暮らし・自然・産業が結び付き文化をつなぐ持続可能な風景都市～ 都市づくりの基本方針： 人にやさしく安心して暮らせる都市づくり、 豊かな自然や風景を守り・育む都市づくり、 多様な機能が連携する複合的な都市づくり、 効率的で環境負荷の小さい都市づくり 和田地区の中心市街地エリアは「生活文化拠点」に位置付けられ、拠点づくりについて以下の考え方が示されている。 ・地域の特徴である伝統的な町並みや昔ながらの路地空間などを地域の宝として保全しつつ、安全で快適に暮らせるための都市基盤の整備を推進 ・海水浴場・民宿・町並み・路地空間・和田港などの地域資源を活かしたまちづくりを進め、住民相互や来訪者との交流などを通じて、地域の魅力や活力を創出 高浜町立地適正化計画(平成31年3月策定) 都市づくりの目標及び基本方針 都市計画マスタープランと同様 本地区(生活文化拠点)の誘導方針 ・地域における暮らしやすさを高めるため、医療・福祉・商業等の必要な都市機能や生活サービス機能を導入</p>

都市構造再編集集中支援事業の計画 都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

・中心市街地は、旧町村の中心部であったことから、鉄道駅及び医療、福祉、商業等の日常生活機能や教育機能が集積しかつ近接しており、引き続き住民の日常生活に必要な機能を一定の区域に集約することで、周辺地域への居住を誘導するとともに、自動車に依存することのない、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを実現する。

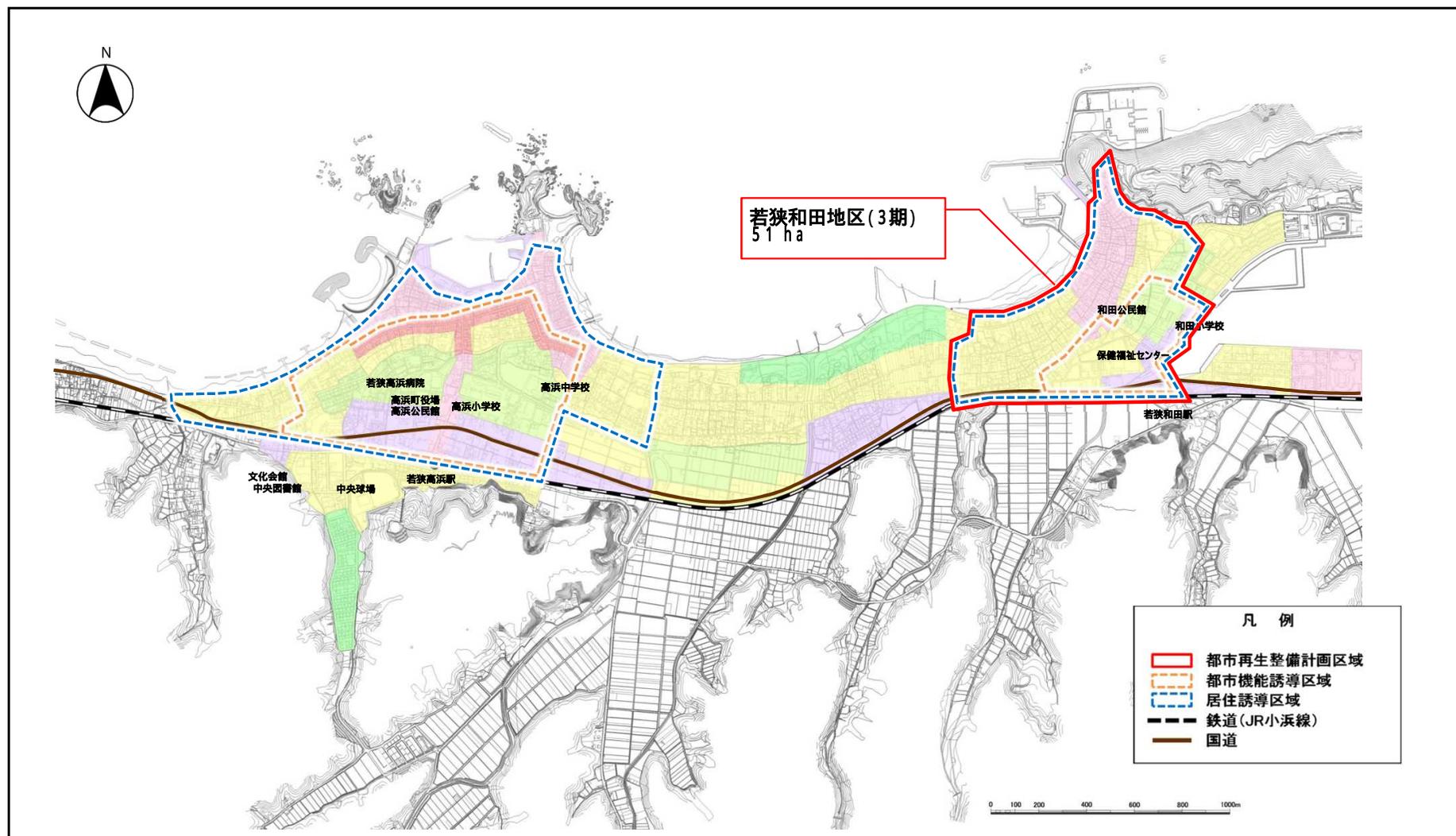
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内人口	人/年	計画地区内の住民基本台帳人口	安全安心な居住環境の創出により、住宅市街地としての価値を高め、人口密度の維持を図る(立地適正化計画の目標値に準ずる)。	1,324	R4	1,270	R10
和田公園利用者数	人/年	和田公園利用者数	交流の場となる公園の整備により、住宅市街地としての価値を高める(街区公園の一般的な利用水準を目指す)。	0	R5	25,900	R10

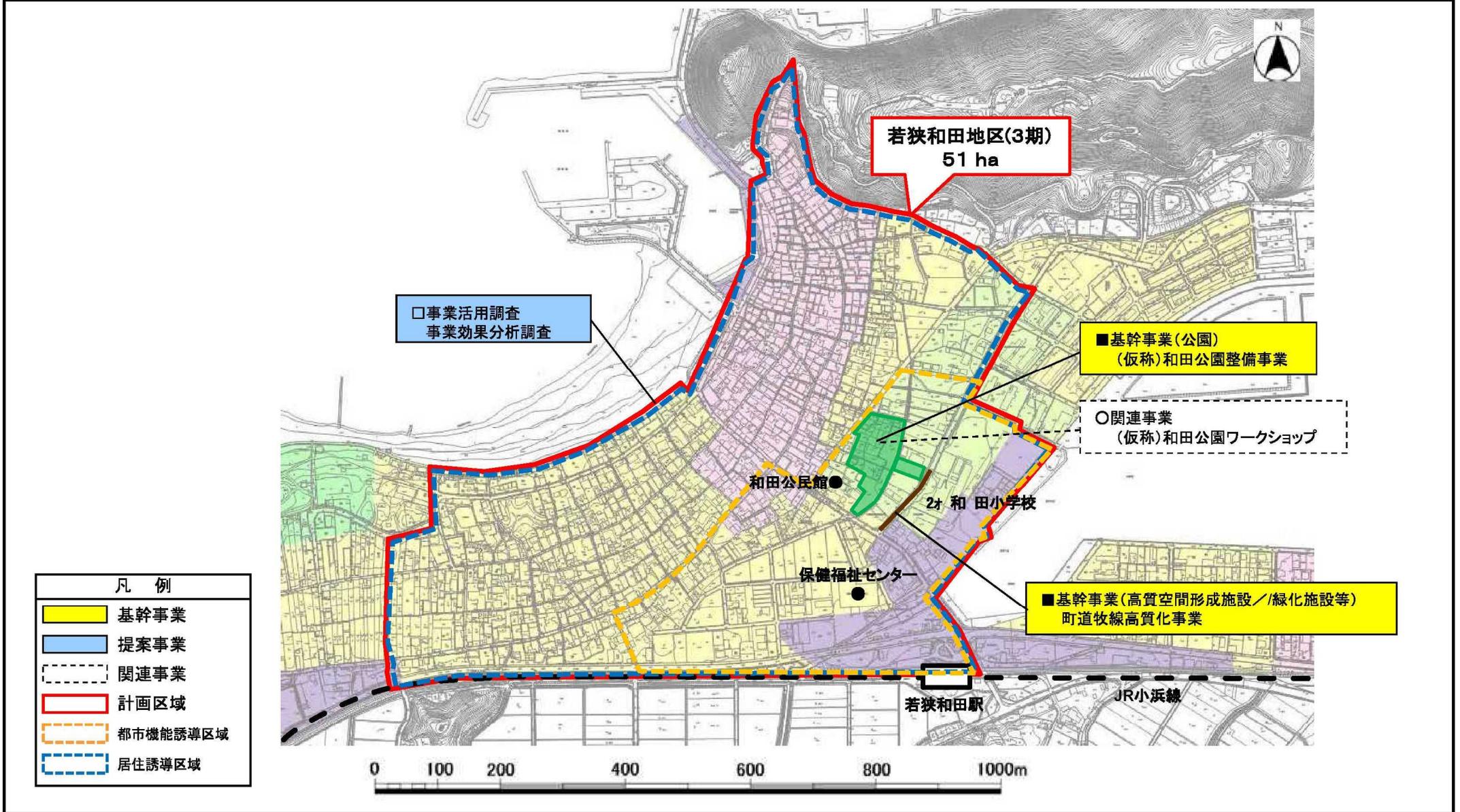
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>1. 快適で安全・安心な生活や日常的な交流等を支える都市基盤の充実</p> <p>まちなか居住の促進や活力の創出に向けて、住環境に潤いを与えるとともに地域住民の交流の場として活用できる公園の整備や、快適に移動できる歩行空間として主要道路から公園にアクセスする町道の高質化を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)和田公園整備事業【基幹 / 公園】 ・町道牧線高質化事業【基幹 / 高質空間形成施設 / 緑化施設等】 ・(仮称)和田公園ワークショップ【関連事業】
<p>その他</p>	
<p>計画期間中の計画の管理について</p> <p>・計画期間内において各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実な成果をあげるため、学識経験者や各種団体代表者、関係機関、町民等により構成する高浜町都市計画マスタープラン戦略会議において、その他関連する取り組みも含めた総合的な計画・進捗管理を行う。</p>	

若狭和田地区(3期)(福井県高浜町)	面積	51 ha	区域	大字和田の一部
--------------------	----	-------	----	---------



若狭和田地区(3期)(福井県高浜町) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標 和田地区におけるまちなか居住の促進と活力の創出	代表的な指標	地区内人口 (人/年)	1,324 (R4年度)	→	1,270 (R10年度)
	小目標 快適で安全・安心な生活や日常的な交流等を支える都市基盤の充実		和田公園利用者数 (人/年)	0 (R5年度)	→	25,900 (R10年度)
					→	



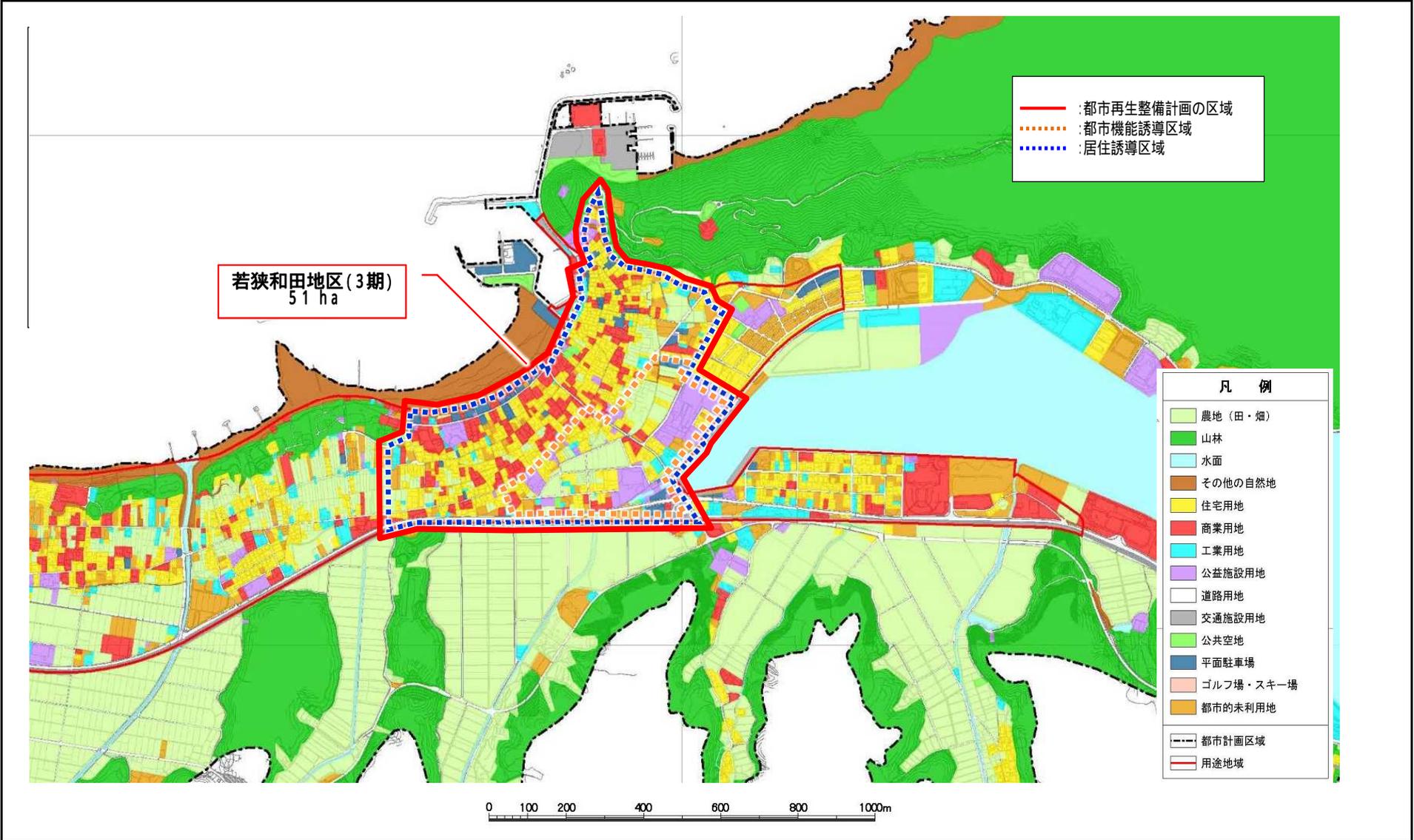
都市再生整備計画の添付書類等

交付対象事業別概要

わかさわだ ちく き 若狭和田地区(3期) (ふくい たかはまちょう 福井県高浜町)

活用する事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	
都市再生整備計画事業	
コンパクトシティ支援型	
観光等地域資源活用支援型	
経過措置	
まちなかウォークアブル推進事業	
コンパクトシティ支援型	
観光等地域資源活用支援型	

若狭和田地区(3期)(福井県高浜町) 現況図



交付限度額算定表(その1)

若狭和田地区(3期)(福井県高浜町)

様式(2)-

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額の合計(X)	161.8 百万円	規則第16条第1項に基づく交付限度額(Y)	10,397.0 百万円	X Yゆえ、本計画における交付限度額	161.8 百万円
-----------------------------	-----------	-----------------------	--------------	--------------------	-----------

規則第16条第1項に基づく限度額算定

Au	204,000 m ²
-----------	------------------------

公共施設の上限整備水準			
区域面積(m ²)		510,000	
当該区域の特性に応じて国土交通大臣が定める割合	区域の面積が10ha未満の地区	0.50	
	最近の国勢調査の結果による人口集中地区内	0.45	
	その他の地域	0.40	

Cl	186,500 円/m ²
-----------	--------------------------

単位面積あたりの標準的な用地費	
標準地点数	1
公示価格の平均値(円/m ²)	28,100
単位面積あたりの標準的な補償費	
当該区域内の戸数密度(戸/m ²)	0.001
標準補償費(円/戸)	44,000,000

Cf	23,000 円/m ²
-----------	-------------------------

控除額	690 百万円
------------	---------

都市再生整備計画関連事業とは別に国庫補助事業等により整備する施設		
施設名(事業名)	面積(m ²)	国庫補助事業費等(百万円)
和田第1排水区1号排水路	550m	689.9
合計	0	689.9

Ap	102000 m ²
-----------	-----------------------

公共施設の現況整備水準	
整備水準が明らかになっている類似市街地等からの推定	
推定現況整備水準(小数第2位まで)	0.2
推定公共施設面積(m ²)	102000
個別公共施設の積み上げ	
	面積(m ²) 割合
道路	-
公園	-
広場	-
緑地	-
公共施設合計	0 0

Cnを考慮しない場合の交付限度額(Y1)	10339 百万円
-----------------------------	-----------

Cn	115,600,000 円
-----------	---------------

下水道	
区域面積(m ²)	510,000
うち現況の供用済み区域面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	3,600

地域交流センター等の公益施設(建築物)	0 円
----------------------------	-----

上限床面積(m ²)	9,400
標準整備費(円/m ²)	408,100

調整池	0 円
------------	-----

調整池の容積(m ³)	
標準整備費(円/m ³)	140,000

河川	0 円
-----------	-----

河川整備延長(m)	
標準整備費(円/m)	3,700,000

住宅施設	0 円
-------------	-----

建設予定戸数(戸)		
	超高層	
	一般	
	合計	0
標準整備費(円/戸)		
	超高層	一般
北海道特別地区	41,310,000	33,500,000
北海道一般地区	38,190,000	30,990,000
特別地区	49,120,000	35,690,000
大都市地区	37,170,000	30,180,000
多雪寒冷地区	41,510,000	32,370,000
奄美地区	39,520,000	35,640,000
沖縄地区	30,280,000	30,280,000
一般地区	33,700,000	28,640,000

市街地再開発事業による施設建築物	0 円
-------------------------	-----

施設建築物の延べ面積(m ²)	
標準共同施設整備費(円/m ²)	132,000

電線共同溝等	115,600,000 円
---------------	---------------

電線共同溝等延長(m)	170
標準整備費(円/m)	680,000

人工地盤	0 円
-------------	-----

人工地盤の延べ面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	5,300,000

協議して額を定める大規模構造物等	0 円
-------------------------	-----

大規模構造物等		
	協議状況	整備費(円)

Cnを考慮した場合の交付限度額(Y2)	10397 百万円
----------------------------	-----------

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額(活用する交付金の欄のみご記載ください。)

<都市構造再編集集中支援事業>

交付限度額(X1)	161.8 百万円
-----------	-----------

<都市再生整備計画事業>

交付限度額(X2)	百万円
-----------	-----

<まちなかウォークアブル推進事業>

交付限度額(X3)	百万円
-----------	-----

交付限度額算定表(その2)(都市構造再編集集中支援事業)

[当初から都市構造再編集集中支援事業を実施する地区の場合]

本シートについて、各自治体が交付限度額を算出する上での参考として添付しているものです。事業毎に状況が異なりますので、各自治体の責任において適切に交付限度額を算出するようお願いいたします。

交付要綱に掲げる式による限度額算定(詳細)

○ 交付対象事業費

水色のセルに事業費等必要事項を入力して下さい。(事業費の単位:百万円)

< 都市機能誘導区域内 >

交付対象事業費	基幹事業合計(A)	320.000
	提案事業合計(B)	0.000
	合計(A+B)	320.000

(事業費)
(事業費)
(事業費)

以下の2つの条件それぞれについて、該当する場合は を入力。

都市機能誘導区域面積割合が50%以上の場合	
提案事業2割拡充の適用	

都市機能誘導区域面積割合: 都市機能誘導区域の面積の市街化区域等(市街化区域又は非線引き用途地域)の面積に占める割合。

< 都市機能誘導区域外 >

交付対象事業費	基幹事業合計(C)	0.000
	提案事業合計(D)	4.000
	合計(C+D)	4.000

(事業費)
(事業費)
(事業費)

$(10/10 \times (A+B)) + (9/10 \times (C+D))$ (1)	
都市機能誘導区域面積割合が50%以上の場合: $(9/10 \times (A+B)) + (9/10 \times (C+D))$	323.600
$(10/9 \times (A+C))$ (2)	
提案事業2割拡充を適用する場合: $(10/8 \times (A+C))$	355.556
(、 の小さい方)	323.600

< 居住誘導促進事業 >

交付対象事業費	合計(a)	0.000
---------	-------	-------

(事業費)

交付限度額(+) × 1/2	161.800
------------------	---------

(国費)

○ 交付限度額、国費率

交付対象事業費(A+B+C+D+a)	324.0
--------------------	-------

(事業費)

交付要綱に基づく交付限度額 (を1万円の位を切り捨て)	161.8
国費率	0.499

(国費)

(国費率)

年次計画(都市構造再編集支援事業)

様式(2)- -1
(事業費:百万円)

事業		事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
道路									
公園		(仮称)和田公園整備事業	高浜町	285.0	248.0		20.0	17.0	
古都保存・緑地保全等事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高層空間形成施設	緑化施設等	町道牧線高質化事業	高浜町	35.0		10.0	25.0		
高次都市施設	地域交流センター								
	観光交流センター								
	テレワーク拠点施設								
	子育て世代活動支援センター								
	複合交通センター								
誘導施設	医療施設								
	社会福祉施設								
	教育文化施設								
	子育て支援施設								
	元地の管理の適正化								
基幹的誘導施設									
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									
バリアフリー環境整備促進事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									
エリア価値向上整備事業									
計				320.0	248.0	10.0	45.0	17.0	0.0

事業		事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
地域創造 支援事業									
事業活用 調査	事業効果分析調査	地区内	高浜町	4.0					4.0
まちづくり活動 推進事業									
計				4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0

居住誘導促進事業		事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
居住誘導促進事業									
計				0	0	0	0	0	0
合計				324.0	248.0	10.0	45.0	17.0	4.0
累計進捗率 (%)					76.5%	79.6%	93.5%	98.8%	100.0%

(参考)都市構造再編集支援事業関連事業		事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
事業									
計				0	0	0	0	0	0
累計進捗率 (%)					#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

(参考)関連事業		事業箇所名	事業主体	全体 事業費	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
事業									
(仮称)和田公園ワークショップ		(仮称)和田公園	高浜町						
計				0	0	0	0	0	0
累計進捗率 (%)					#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

公園(都市公園補助事業採択要件外)

単位:百万円

公園等名(*1)	種別等(*2)	面積(m ²)	事業主体(*3)	施設概要 (施設名、整備内容等) (*4)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳			備考
						設計費	用地費・補償費	施設整備費	
(仮称)和田公園	無	10,000m ²	高浜町	・条例設置公園 ・芝生広場、遊具、監視 カメラ	285		248	37	
合計	-		-	-	285		248	37	-

整備イメージ((仮称)和田公園 その1)

・和田地区の中核となる公園として、和田公民館と併設する敷地に町民参加型での公園を整備し、子どもから高齢者までが交流し、多世代で子育てを見守る環境づくりを整備する。



1 ワークショップの意見を元にした整備方針と整備例 芝生広場

方針 人々の多様で活発な活動を促す大きな広場

簡単なスポーツから盆踊りなどのイベントまで、様々な規模の活動を受け止め、地域住民の多種多様な活動に対応できる広場にします。

ワークショップ意見

- ・キャッチボールなどの簡単なスポーツができるくらい大きさが欲しい
- ・A案の広場のサイズ感が丁度良い
- ・300人規模の広場がほしい
- ・盆踊りなど、大規模なイベントができる広さが欲しい
- ・広場は凹凸しているよりもフラットであるほうが使いやすい



方針 利用者に安らぎを与える憩いの広場

広場利用者に豊かな休憩時間を与える木陰や日陰の休憩所や、水による涼しげな要素を取り入れた広場にします。

ワークショップ意見

- ・東屋や木陰など日陰の休憩場所が欲しい
- ・淡水で遊べる場所が欲しい
- ・活発系よりはリラックス系の広場にしたい



整備イメージ((仮称)和田公園 その2)

2 ワークショップの意見を元にした整備方針と整備例 自然とのふれあい

方針 アクティビティを考慮した自然がある

和田は豊かな自然資源に恵まれているため、それらの資源を活用し、公園内には小規模な自然を配置し、公園内のアクティビティを大切にします。

ワークショップ意見

- ・木などの植栽は虫や枯葉の管理や災害時に大変なのでそれほど必要ない
- ・ピオトープは既に和田にいくつかあるので必要ない
- ・ピオトープが欲しい(保育士WSより)

方針 季節によって変化する自然とその親しみ方

季節によって表情が移り変わる桜やドングリなどの実がなるの木や、子供の興味を引く昆虫が飛来する木を配置することで、公園内の自然環境に四季のバリエーションが追加されます。

ワークショップ意見

- ・花見ができるように桜の木があると良い
- ・子供たちが遊べるようなドングリや昆虫が来る木があると良い



美しい花壇

3 ワークショップの意見を元にした整備方針と整備例 遊具

方針 シンボルとなる遊具がある遊び場

単一の遊具が並ぶだけではなく、いくつかの遊具が複合した大きな規模の遊具も設置することで地域内での公園のシンボル性を表現し使える楽しい広場づくりを目指します。

ワークショップ意見

- ・最新の遊具が欲しい
- ・ふわふわドームやボルダリングなどの面白い遊具が欲しい

方針 多世代交流の場をつくる遊具の設置

子供たちが遊ぶためのものだけでなく地域の方が少し体を動かしたり隙間時間を利用した交流を生み出すことのできる場を遊具を使って作ります。

ワークショップ意見

- ・健康遊具が欲しい
- ・子供たちが遊具で遊んでいる間に保護者が休みながら見守れる場所が欲しい。



実のなる木

6 ワークショップの意見を元にした整備方針と整備例 設備及び駐車場

方針 和田における防災拠点としての役割

防災シェルターや防災倉庫、蓄電・貯水などの設備を整えて防災拠点として安心して暮らすことができる広場を作ります。

ワークショップ意見

- ・250人規模の防災シェルターが欲しい
- ・広場内に防災倉庫を置く場所が欲しい
- ・太陽光発電による蓄電貯水などの設備を整えて防災拠点として機能して欲しい

方針 利用客が安心して快適に使うことができる広場

駐車場と広場との関係性や周辺の公民館との関係性を考慮した多くの人々が快適に使い、憩うことができる広場を作ります。

ワークショップ意見

- ・駐車場はそんなに必要ない
- ・風が強くない南側に自転車置き場が欲しい
- ・旧保育所を駐車場にしたら良いのでは
- ・公民館が休館のときは近くに使えるトイレがないのでトイレが欲しい
- ・現在バスが公民館の駐車場を発着所として使っているため、新たにバスの停留所が欲しい
- ・夏は涼しく利用したいのでスプリンクラーが設置されていると良い
- ・次世代エネルギーなどのモニュメントを作り、その発信をしていきたい



監視カメラの設置(写真はイメージ)

高質空間形成施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名 (路線名等)	事業主体	規模 (箇所数、延長等)	概要 (整備内容等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳			備考
						設計費	用地費・補 償費	施設整備費	
緑化施設等(植栽・緑化施設、せせらぎ・カスケード、カラー舗装・石畳、照明施設、ストリートファニチャー・モニュメント、給電・給排水施設、土塁、堀跡等)	牧線	高浜町		ILB舗装 L=130m、W=2.0m、A=260㎡ 横断防止柵設置 L=100m 歩道照明 N=17基 サイン 一式	35	10		25	
電線類地下埋設施設									
電柱電線類移設									
地域冷暖房施設							-	-	
歩行支援施設、障害者誘導施設等									
公共公益施設と一体的に整備する情報化基盤施設									
合計	-	-	-		35	10	0	25	

整備イメージ(町道牧線)

・県道(若狭和田駅から若狭和田海水浴場へと続く和田の主要導線)から小学校や保育所、(仮称)和田公園などにつながる町道牧線の高質化を行い、歩きたくなる安全で魅力的な道路空間を創出する。



【整備イメージ】

5 KURUMU ストリート

ワークショップの意見を元にした整備方針と整備例

方針 和田を代表する賑わい溢れた道

若狭和田駅から若狭和田海水浴場へと続く和田の主要導線となる道から引き込まれ、街の人々や園児、小学生で溢れた道にします。

ワークショップ意見

・和田の代表する賑わいの道になりそうなので名前は公募などで決めたい



0 15 30 60 90 120 150
m

都市構造再編集集中支援事業事前評価シート

計画の名称： 若狭和田地区(3期)

事業主体名： 高浜町

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○

施行地区要件確認シート

活用する事業	都市構造再編集集中支援事業
---------------	---------------

都市構造再編集集中支援事業を活用する場合		
確認事項	チェック	記載事項等
1) 立地適正化計画(都市機能誘導区域・居住誘導区域ともに設定)が策定されているか。	○	策定期間:平成31年3月
2) 都市機能誘導区域を定めた立地適正化計画に都市計画区域外の地域生活拠点の位置付けがあるか。 ※地域生活拠点で事業を実施する場合のみ。		
3) 地域生活拠点は、都市機能誘導区域を含む立地適正化計画を有する市町村(基幹市町村)の都市機能誘導区域から公共交通により概ね30分で到達できる区域か。 ※地域生活拠点で事業を実施する場合のみ。		
4) 都市再生整備計画に基づき実施される事業等が立地適正化計画の目標に適合しているか。	○	
5) 居住誘導区域を定めない区域を規定する法第81条第19項に反して居住誘導区域を定めていないか。	○	
6) 原則として、居住誘導区域に含まないこととすべき区域を規定する都市計画運用指針に反して居住誘導区域を定めていないか。	○	
7) 市街化調整区域で都市計画法第34条第11号に基づく条例の区域を図面、住所等で客観的に明示していない等不適切な運用が行われていないか。	○	
8) 事業実施区域が交付要綱第2条の3に定める区域と適合しているか。	○	

目標値の設定 「指標1：地区内人口」

≪従前値の計測≫

■計画地区の人口（実測値、住民基本台帳(日本人)より)

行政区	H23.3	H24.3	H25.3	H26.3	H27.3	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3
和田一区	249	249	238	250	242	253	263	265	266	266	269	269	262
和田二区	242	233	234	243	236	217	225	223	214	215	225	210	206
和田三区	316	316	315	314	313	300	305	301	302	287	271	269	265
和田四区	236	240	231	226	222	216	230	216	221	199	194	187	191
和田五区	312	307	296	286	276	275	274	267	262	264	255	246	245
和田六区	166	162	169	166	164	160	151	155	155	160	157	145	143
合計	1,521	1,507	1,483	1,485	1,453	1,421	1,448	1,427	1,420	1,391	1,371	1,326	1,312

※和田一区のみ全体に0.6を乗じた値

- ・住基台帳と国勢調査の結果には差が見られる。
(R2年9月末の高浜町全体の住基台帳人口10,234人に対して、R2国勢調査は10,326人)
- ・目標値は国勢調査を基に算出することになるが、従前値は直近のデータとしては住基台帳を用いることになるため、データ出典に整合がないことになる。
- ・そのため従前値(R5.3)は、住基台帳の値を国勢調査との関係に応じて補正する。

$$1,312人 \times (10,326人 / 10,234人) = \boxed{1,324人} \leftarrow R4従前値$$

≪目標値の設定≫

- ・計画区域は居住誘導区域と同様であるため、目標値は高浜町立地適正化計画（2018年7月策定）の考え方に準じて設定する。
- ・具体的には、立地適正化計画に掲げる居住誘導区域のR22人口密度の目標値から、和田地区のR22目標人口を推計している。
- ・従前値よりも低い値となるが、国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づく趨勢値よりも83人の上乗せを目指している。

■立地適正化計画に掲げる居住誘導区域(全体：145ha)の人口密度・人口の目標値

	人口密度	人口	
H22(2010)実績値	31.4人/ha	4,546人…①	※社人研予測
R22(2040)推計値	20.6人/ha	2,993人	
R22(2040)目標値	26.4人/ha	3,828人…②	

■計画区域(和田地区居住誘導区域：51ha)の人口

	人口	計算式
H22(2010)実績値	1,433人…③	立地適正化計画より(国勢調査を基に算出)
R10(2028)目標値	1,270人	立地適正化計画がH30年度策定であるため、施策効果がH31年度以降に発現すると仮定 ⑥-((⑥-④)*10/22)
R22(2040)目標値	1,207人…④	③*(②/①)：誘導区域全体の傾向と同等と仮定

(参考) 事業を実施しなかった場合の推計値

	人口	計算式
H22(2010)実績値	1,433人…⑤	立地適正化計画より(国勢調査を基に算出)
H30(2018)推計値	1,324人…⑥	⑤-((⑤-⑦)*8/30)：H22とR22の人口から推計
R10(2028)推計値	1,187人	⑤-((⑤-⑦)*18/30)：H22とR22の人口から推計
R22(2040)推計値	1,023人…⑦	立地適正化計画より(社人研の推計結果を基に算出)

目標値の設定 「指標 2 : 和田公園利用者数」

《従前値の計測》

- ・ 未供用の公園であるため従前値は「0」

《目標値の設定》

- ・ 令和3年度都市公園利用実態調査(国土交通省)の「街区公園の1日当たり平均利用者数」を用いて、目標値を設定する。

① 街区公園の年間利用者数の設定

	街区公園の1日当たり平均利用者数	×	年間日数	=	年間利用者数	合計【A】
休日	167人/日	×	120日	=	20,040人/年	67,570人/年
平日	194人/日	×	245日	=	47,530人/年	

② 和田公園利用者数への換算

- ・ ①の結果は全国平均値であり、地域性や立地状況などは加味されていない。
- ・ そこで、都市計画区域内の人口密度の比率を用いて、全国平均値を和田公園利用者数に換算する。

	都市計画区域 (R4. 3. 31時点)			比率【B】
	面積	人口	人口密度	
高浜町	1,568ha	6,956人	4.44人/ha	0.38
全国	10,284,248ha	118,986.3千人	11.57人/ha	

$$\begin{aligned}
 \text{和田公園利用者数} &= A \times B \\
 &= 25,909\text{人/年} \quad \div \quad \boxed{25,900\text{人/年}}
 \end{aligned}$$